

Pride

令和2年

6年学級通信

4月22日 No.3



次に会える日を思い、力に！！

臨時休業に入り1週間が経ちました。6年生のみなさん元気に過ごしていますか？新年度が始まり最上級生としての自覚と意欲に満ち、真っ直ぐに伸びようとする皆さんと過ごすことができたのは、5日間でした。その後の臨時休校に伴い、戸惑いやもどかしさを抱えながらの生活が続いていると思います。先日、緊急事態宣言が発令され、特定警戒都道府県にも位置付けられるなど、ますます息苦しさを感ずる生活となっています。

しかし、「大切な自分自身を守るため」「自分の大切な人を守るため」の行動を一人一人が実践することで、「周りの人の大切な人を守る」ことにもつながっていると信じて行動していきたいと私自身も考えているところです。

次に会える日を思い、毎日の力に変えていきましょう！！

「たのしみは・・・」

「たのしみは」とはじめて「時」と結ぶ。幕末期の福井の歌人橘曙覧は生きる喜びを同じ体裁で詠んだ。～中略～

できる限り家にとどまることが求められている今である。ウィルス禍の中、この生活に前向きななにかが見いだせるとすれば、それは家族との「たのしみ」の時間ではないだろうか。

「たのしみは 妻子むつまじくうちつどひ 頭ならべて 物をくふ時」

令和2年4月22日(水) 北陸中日新聞「中日春秋」より

今朝、新聞を読み、目に留まった記事です。実は6年生の国語の短歌の学習でも扱う歌です。国語の教科書の60ページを開いてみてください！新聞で紹介された短歌なども取り上げられています。

このような中だからこそ、「家族」と過ごす時間を大切に、その中から、「たのしみ」を見つけることは大切なことではないかとの記事を見て思いました。その「たのしみ」が「自分の心を落ち着かせてくれるもの」であったり、「自分と家族がホッとするもの」であったり、「自分の成長につながるもの」であれば、とても素敵なことだと思います。

家にとどまる時間が多く、閉塞感もありますが、その「たのしみ」を育てる大切な時間と捉えることもできるのではないかと、自分自身が考えさせられました。

みなさんの「たのしみ」はありますか？教科書の63ページに書き込んでみるのもいいですね！

次に会える日にはどんな「たのしみ」を見つけて過ごしていたのか、話を聞かせてくださいね！！